

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人とよなか国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

豊中市は、大阪の北部に位置する外国人の少数散在地域であり、外国人は約 4,700 人で市の人口の 1.18%を占めている(2010 年 12 月時点)。子どもの状況に目を向けると、小中学校に在籍する外国人児童生徒数は約 100 人、帰国児童生徒は 200 人を超える。市内には、帰国児童生徒受け入れの 40 年の歴史をもつ小中学校や、大阪大学があることから留学生や研究者の子どもが在籍する小学校があるが、こうした一部の小中学校をのぞいては、外国につながる子どもは散在して存在している。韓国・朝鮮につながる子どもも含め、国際結婚で生まれたダブルの子どもや呼び寄せられた子どもが多く、中国、韓国、フィリピン、タイ、ペルー、ブラジルなど多様な国にルーツをもつ子どもが各学校に 1 人、2 人という少人数で在籍している。子どもたちの多くは、文化的背景を豊かなものとして積極的に押し出す機会のないまま、潜在化される状況にある。

近年、市内及び近隣地域において日本語に躓く子どもたちの多様で深刻な課題が明るみにってきた。渡日の子どものだけでなく、帰国した日本人の子どもでも現地校に長年通っていたため母語が日本語でなかったり、国際結婚で呼び寄せられた子どもやダブルの子どもたちが生きていくために必要な日本語を十分に身につけられていないという状況が出てきた。子どもたちの通う学校で日本語指導の体制づくりが望まれるが、学校教育の中だけで取り組むには限界がある。一方、地域には日本語指導の経験豊かな指導者やボランティアがいて、さまざまな公共機関や研究機関、民間とつながりネットワークを構築している。こうした人たちが、発達段階にある子どもへの日本語指導にかかわり地域で子どもたちを支えることが今後一層重要になってくる。

本事業では、子どもの日本語指導者が養成されることを前提に(区分「日本語指導者養成」、養成講座修了者が講座で得た学びと経験をもとに、実際に子どもたちに日本語を指導する、「とよなかこども日本語教室:おたすけにほんごレンジャー」を設置運営する。この日本語教室の特徴は、第一に、子どもの日本語のレベルと状況に応じてカリキュラムと指導計画及び細案がつくられるため、子どもたちは系統立った日本語を継続的に学ぶことができる。第二に、教室は子どもの日本語指導の経験豊富な教授者によって運営され、養成講座修了者がその教授者のアドバイスとサポートのもと指導実践にあたる。これは、地域人材の発掘と育成を兼ねている。このような特徴を最大限に活かし、地域における子どもたちの居場所づくりをすすめると同時に、子どもたちが学校現場で力を発揮できるような日本語力を身につけることを目標とする。

また、教育委員会や学校など行政との連携は子どもの日本語指導をすすめるにあたって欠かせないものである。市内小中学校の日本語指導担当者や通訳者、子ども日本語指導者(地域ボランティア)など、支援者のネットワークを構築し、子どもの日本語保障を目指す仕組みづくりにも力を入れる。行政と地域がそれぞれの強みと弱みを持ち寄り、協会が子どもに日本語指導をおこなう指導者(ソフト面)を育成し、学校と役割分担及び連携をしながら支援体制(ハード面)を構築していく素地をつくっていくこととする。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月2日 13:00 ～15:00	とよなか 国際交流 センター	子どもの日本語指導者スーパーバイザー（大阪市教育委員会日本語指導協力者、元大阪市立中学校帰国した子どもの教育センター校教員） 地域日本語ボランティア（とよなか国際交流協会 日本語ボランティア） とよなか国際交流協会職員 合計 7 人	日本語教室の設置と必要な支援システムについて	・2 人の教授者と補助者及び職員で教室を運営。そこに養成講座修了生がくわわり指導にあたる。小学校低学年と小学校高学年・中学生の 2 教室に分れ、週 3 回開催する。 ・豊中市協働事業市民提案制度（担当課：豊中市市民協働部コミュニティ政策室）に応募。豊中市教育委員会と協働し日本語教室を運営し、豊中市における子ども日本語指導のシステムづくりを目指す。 ・協働事業の成案化検討に進み、「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に応募（豊中市が大阪府に申請）。 【事業名】学校と地域資源の有機的な連携による、日本語力を通した学習権と生活保障のためのシステムづくり
10月10日 13:00 ～15:00	とよなか 国際交流 センター	子どもの日本語指導者スーパーバイザー（大阪市教育委員会日本語指導協力者、元大阪市立中学校帰国した子どもの教育センター校教員） 地域日本語ボランティア（とよなか国際交流協会 日本語ボランティア） とよなか国際交流協会職員 合計 7 人	教室運営と指導者育成の意義と課題	・日本語指導のあり方に関する考え方及び教室運営・子どもの状況についての意見交換。 ・「新しい公共の場づくりのモデル事業」採択までの過程について
3月10日 13:00 ～15:00	とよなか 国際交流 センター	子どもの日本語指導者スーパーバイザー（元大阪市立中学校帰国した子どもの教育センター校教員） 地域日本語ボランティア（とよなか国際交流協会 日本語ボランティア） とよなか国際交流協会職員 合計 5 人	一年の振り返りと来年度の展望	・協会事業の評価軸に沿って事業の振り返りを行う（居場所の視点、エンパワメントの視点、ボトムアップの視点） ・豊中市協働事業市民提案制度、及び大阪府「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に採択され、2012 年 4 月から豊中市と結びつき協働事業を展開する。 ・地域の役割として民の立場から日本語学習が必要な子どもを支え、学校や教育委員会と連携しシステムをつくることで、学校環境の安定や子ども全体の学力向上につながるような取り組みを進めていく。 ・官民の協働事業である先進的な取り組みがモデルケースとなる可能性がある。

【写真】 運営委員会の様子



3 日本語教室の開催について

- ① 講座名 とよなかこども日本語教室「おたすけ にほんごレンジャー」
- ② 開催場所 とよなか国際交流センター
- ③ 学習目標

日本語力が原因で学校の授業などで躓いている子どもたちに、系統立った日本語を指導することで、子どもたちが教科や学力につながる日本力を身につける。

小学校高学年・中学生の教室、低学年の教室の 2 教室を開催する。それぞれの子どもの日本語力と状況に応じて(日本語力診断を実施)、きめ細かいカリキュラムを作成し、各授業は指導計画と指導細案をもとに実施される。子どもたちには、毎回、到達目標が定められる。日本語能力試験を基準に、日本語力を評価することもある。

④ 使用した教材・リソース

動詞プリント・形容詞プリント・文字カード・発音プリント・指示語プリントなどオリジナル教材、『低学年児童のための日本語指導マニュアル』(大阪市教育委員会)、日本語能力試験の問題集など。

⑤ 受講者の募集方法

日本語教室の案内チラシを作成し、豊中市教育委員会を通じて全小中学校に配布。関係機関や豊中市内の公共機関に送付されるとよなか国際交流協会『おしらせ』に教室の案内記事を掲載。とよなか国際交流協会の日本語交流活動や多言語相談サービスにやって来る保護者へ案内。

⑥ 受講者の総数 8 人

(出身・国籍別内訳 中国 3 人、ウクライナ 1 人、韓国ルーツ 1 人、
中国ルーツ 1 人、タイ 1 人、フィリピン 1 人)

⑦ 開催時間数(回数) 低学年の教室 110.5 時間 (全 66 回) 高学年の教室 176 時間 (全 66 回) 合計 286.5 時間 (全 132 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容 * 別紙参照

⑨ 特徴的な授業風景

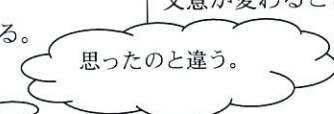
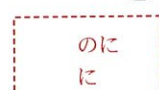
指導案 第 9 週 第 1 次 12月 12日 (月)

指導者名：田中・野村

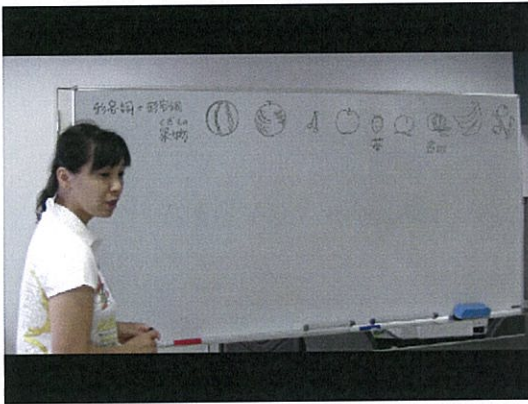
対象児童生：小 6 (中国、帰国)

題材：形容詞文とつなぎの言葉

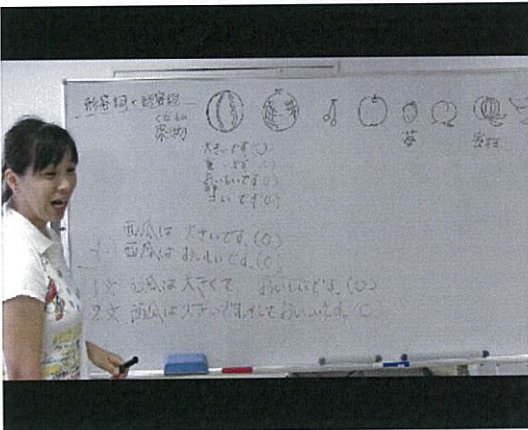
指導目標：二つの形容詞文のつなぎ方を学ぶ。表現したい意味によって、つなぎ方を変えることができるようになる。

		指導者の指導活動	指導上の留意点	時間
テスト	A (序数詞)、B (位置語彙、一般用語)	日記添削		20 分
導入 前半	二つの要素をつなぐ方法があることを知る。 順接で並列の意味を表すつなぎ方を知る。 ①「～くて、～です。」「～です。そして、～です。」(○)または(×) ノートに写す。	白板上に数種の果物の絵を描く。 ・そのうち一つについて形容詞をいくつか挙げ、1 文+1 文=2 文(○)(×)のやり方をみせる。 ・子どもにも同じように、果物を選ばせ、形容詞をいくつか出させる。それぞれに、○×の印を付け、つなげる(○)	記号を用い、文意を明確に伝える。	40 分
	順接で添加の意味を表すつなぎ方を知る。 ②「～し、～です。」「～です。それに/しかも、～です。」(◎)または(××) ノートに写す。 ③②の過去形	・例を見せる。 1 文+1 文=2 文(◎)または(××) 並列より、肯定または否定の意味が強くなることを教える。 ・先ほどの果物で、文を作らせる。	「もっと嬉しい」などという抽象的な説明ではなく、具体的に状況をわからせる。 ①→② ①店員「安くておいしいです」・・・買わない ②店員「安いしおいしいです」・・・買う	
休憩				
後半	逆説の意味を表すつなぎ方を知る。 ④「～(A) けど/が、～(B) です。」「～(A) です。しかし/だけど、～(B) です。」(Bが重要) (○)または(×) ⑤「～のに、～です」「～(A) です。しかしながら/だけでも、(B) です。」(期待と意外性の意味を持つ) (◎)または(××) ノートに写す	・例を見せる。 1 文+1 文=2 文 (後半の文が重要) ・子どもにも文を考えさせる。 ・果物以外の例も示す。  	2 文の前後をいれかえることで文意が変わることに注意させる。	30 分
まとめ	次回、形容詞のつなぎのテスト			

授業風景



①本授業のねらいは、「二つの形容詞文のつなぎ方を学ぶ。表現したい意味によって、つなぎ方を変えることができるようになる。」である。授業の導入では、まず果物（西瓜・メロン・さくらんぼ・りんご・苺・桃・桃・蜜柑・バナナ・枇杷）の日本名を知っているか確認し、さらに上位概念である「果物」という言い方も知らせる。



②すでに学んでいる形容詞を使って、果物を言い表す。例えば、西瓜について、「大きい (○)・重い (×)・おいしい (○)・甘い (○)」という形容詞ができた。そして、それは良いことなのか悪いことなのか、○×で表す。○×は常識の範囲内で子どもの主観に沿って考えていく。

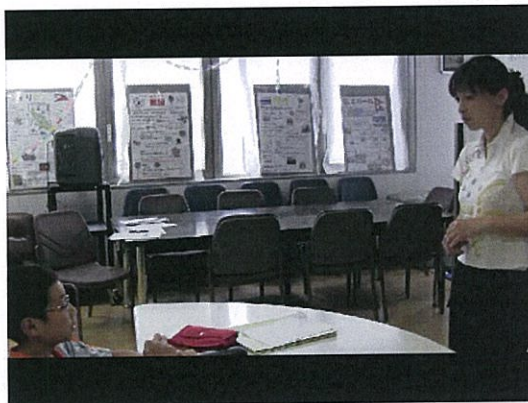
ホワイトボードに簡単な文を2文（「西瓜は大きいです。」「西瓜はおいしいです。」）書き、これらの文についても○か×をつけていく。これらの文を筆算の式を用いて、順接・並列のつなぎを教える。この時、1文でつなぐ方法と2文でつなぐ方法を教える。つなぎ終わった文についても○×をつける。

例 西瓜は大きいです。(○)

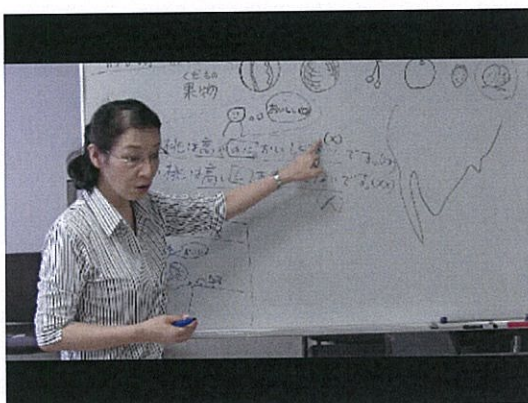
+ 西瓜はおいしいです。(○)

1文：西瓜は大きくて、おいしいです。(○)

2文：西瓜は大きい。そして、おいしいです。(○)



③子どもにも同じように、果物を選ばせ、形容詞をいくつか出させる。それぞれに、○×の印を付け、文をつなぐ練習を行う。



④順接・添加、逆接と文の様々なつなぎ方を知らせていく。意味がわかりにくい表現、(例えば「この桃は高いのに、おいしくありません。」と「この桃は高いし、おいしくありません。」)については、理解して使えるように、丁寧に説明を行う。

$$\square 0 + X = X \square$$

梅はおいしいが、高いです。(X)

梅はおいしいです。しかし、^{だけ}高いです。(X)

$$\square 0 = X + 0 \square$$

5) 想像とは違う...

1文: 蜜桃は安いのに 甘いです。(O)

2文: 蜜桃は安いです。しいたけは 甘いです。(O)
^{どちらも}

練習: 桃はどうですか。

高いです。(X)

高いです。(X)

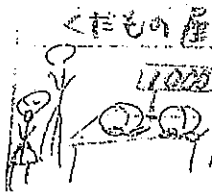
T: 一番が 最もおいしい。

(一) (一番)が 何か わかっているか?
 2. の意味
 3.

この桃は 高い のに おいしい ではないです。→ 高い = おいしい と思いたか おいしい ではない。
 かなり

この桃は 高い い おいしい ではないです。

[高い] = 良くない、悪
 おいしいが 良くない。 → これは X だ。



くだもの屋

おじいさんがおいしいと言いました。

買いました。→ おいしい になった。

この桃は 高い のに おいしい ではないです。

中国と日本の絵 (人口の差)

T: 中国はどうですか。

(一) 人が多くて 多いです。 (二文) 人が多くて 多い 少ないです。

国は強い (X) 雨は少ない (O) → (X) だ。

T: 何を言っていますか。 1文: 高い 2文: 雨は少ないが、国は強いです。

～その他・授業風景～



上：小学校高学年・中学生の教室

【左】動詞文型

【右】動詞反復練習。クイズ形式で出題。

下：小学校低学年の教室

「これは～です」「これは～ですか」「はい～です／いいえ～ではありません」名詞カードを使用。各自のレベルを配慮し、興味・関心を引き出す。

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

◆子どもと保護者への聞き取りより

子どもの感想(海外の現地校から帰国)

普通の人知っているはずの漢字や日本語のベースがなかったので日本語教室で覚えました。少人数で学校の授業のようにやるので、すぐに慣れました。僕に合ったやり方でやってくれるのでやりやすいです。日本語に問題があると言ってもまわりはわかってくれませんが、ここは他の国から来て日本語に不安をもっている人がいるのでわかってもらえます。先生もそれを知っていて、子どもたちのために教えてくれます。先生たちは勉強に対して厳しいですが、雰囲気がいいです。

子どもの感想(中国から来日)

去年10月18日に日本に来ました。最初は楽しくありませんでした。日本語わかりませんでした。友だちがいませんでした。学校では日本の「社会」がわかりませんでした。1月から楽しくなりました。日本語がわかりました。友だちができました。学校の勉強がわかるようになりました。今は楽しいです。面白いです。勉強に忙しいです。日本語教室の先生はやさしいです。少しこわいです。これから、日本語の勉強と歴史をがんばりたいです。日本の高校に行きたいです。

保護者の感想(ウクライナから来日)

6月に日本に来て、今で5ヶ月経ちました。今では、すでに私より漢字を知っていて、学校では友だちとよくしゃべっています。初めてのテストで数学は通訳さんが傍にいて、75点でした。この前受けたテストは、通訳さんなしで70点とりました。日本語教室の勉強は、カリキュラムが系統だっていて、一つの単元でいろいろな要素が入っていて深く学ぶことができます。日本語教室で毎回作文の宿題が出て、「書く」ということも重視されているので、最近、学校で先生が板書する速度にもついていけるようになりました。なので、家で復習するようになりました。これまで日本語の勉強でいっぱいだったけど、最近は家に帰ってから、理科の教科書を開いて、辞書を引いて勉強するようになった。これはすごい進歩だと思います。日本語教室の先生は厳しくて、ウクライナの先生とよく似ているけれど、わからないことは何度も教えてくれるので、信頼しています。

② 学習者の習得状況

本教室では、日本語能力試験の過去問題を子どもたちに受けさせることで、習得状況を確認した。主な状況は以下のとおりである。

日本語能力試験	生徒	通級何週	備考
4級合格	小6 中国新渡日	20週	
	小4 韓国ルーツ	7週	日本語が母語
	中2 ウクライナ新渡日	19週	
3級合格	小6 中国新渡日	21週	
	小4 韓国ルーツ	8週	日本語が母語
	小6 台湾ルーツ	35週	日本語が母語
	中2 ウクライナ新渡日	35週	

新渡日の子どもたちは、渡日後日本語がほとんど話せない状態から、約半年後に教室で実施した日本語能力試験で4級に合格し、1年以内に3級に合格した。国際結婚家庭の子どもや日本生まれの子どもに対しても文法事項のどの部分で躓いているかを知るために、日本語能力試験を受けさせた。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

〈1〉子どものための体系立った日本語学習の場づくり

本事業では、日本語指導が必要な子どもが、日本語のどこで躓いているかをオリジナルの日本語判断を用い把握し、それをもとにカリキュラムや学習内容を決定、毎回の授業で学習到達目標を設定するという、体系立った日本語指導を行った。授業はすべて指導記録として残され蓄積されるため、どの指導者も共有の認識のもと継続的に子どもへの指導を行うことができた。こうした形態の学習によって教科や学力につながる日本語が習得されることを、日本語能力試験などを目安に認識することができた。いまだ学校現場でも十分に整備されていない体系立った日本語学習の場を、地域において生み出すことができた。

〈2〉子ども日本語指導者の育成

週 3 回の日本語指導にボランティアが参加し、スーパーバイザーの助言とサポートのもと指導にあたった。実施最後の 3 月の授業では子どもに安定した指導をできるようになったボランティアもいる。毎授業の指導案づくり、指導記録の蓄積は、指導者の指導力の向上のみならず、今後は教材開発や日本語指導のシステムづくりにも活かされる可能性がある。また、これらを地域の豊富な資源としてとらえた場合、他の地域においても指導者育成のしくみづくりを敷衍していくことができる。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- ・子どもが在籍する学校と連携し、連絡帳でのやりとり、担任との面談などを適宜行ってきた。子どもの日本語力の成長を見て、学校が教室に信頼を寄せ、在籍する他の日本語学習が必要な子どもを教室につないだ。
- ・養成講座を経たとよなかこども日本語教室のボランティアからなる団体「とよなか JSL」(日本語指導者グループ)が結成された。また、豊中市の実施する 2011 年度「協働事業市民提案制度」にとよなか JSL が申請し、採択された。その際、豊中市に必要性を認められたことにより、豊中市と一緒に大阪府の「新しい公共支援事業制度」に応募することに結びついた。2012 年度からは、新しい公共事業のひとつとして豊中市および豊中市教育委員会と、とよなか JSL が、子どもの日本語指導の教室やシステムづくりに取り組む予定である。

⑤ 改善点、今後の課題について

a. 現状と今後の課題

- ・本事業では、日本語学習が必要な子どもの日本語保障に、地域資源を活かしながら、ボランティアや指導者、学校などの協働者とともに取り組んだ。今後は日本語教室運営の中で見えてきた課題や可能性を学校や社会に返していき、学校や教育委員会のシステムのなかで制度的に日本語保障がなされるような方策を探っていく必要がある。そのために、地域国際交流協会と学校や教育委員会の協働を推進していく。

b. 今後の活動予定、展望

- ・豊中市協働事業市民提案制度、及び大阪府「新しい公共の場づくりのためのモデル事業」に、本事業から生まれた日本語指導者グループの提案事業が採択された(事業名:「学校と地域資源の有機的な連携による、日本語力を通じた学習権と生活保障のためのシステムづくり」)。2012 年 4 月から、とよなか JSL、豊中市と協働し事業をすすめ、地域の国際交流協会という役割を活かし関わっていく。

③その他参考資料